

令和 8 年度 第 1 回朝来市環境審議会 議事要旨

日時：令和 8 年 6 月 3 日（水）

14：00～16：00

場所：朝来市役所本庁舎 401、402 会議室

<出席委員>

石田会長、椿野副会長、増原委員、岡田委員、岸野委員、山本委員、天野委員、高木委員、西垣委員、藤本委員、野田委員

<欠席委員>

衣川委員、村上委員、山辺委員、喜多委員、小西委員

<事務局>

松本市民生活部長、村上市民課課付課長兼環境推進室室長、波多野市民課副課長兼環境推進室副室長、田中市民課環境推進室主任

<議事>

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
4. 報告事項
 - (1) 令和 7 年度第 3 回朝来市環境審議会に係る指摘と対応について
 - (2) 朝来市における生物多様性の現状と課題について
 - (3) 朝来市生物多様性地域戦略と朝来市レッドリスト・ブラックリストの作成進捗について
5. 協議事項
 - (1) 朝来市生物多様性地域戦略の作成について
「めざしたい姿（将来像）」「基本戦略」「状態目標」「行動目標」の検討
 - (2) その他
6. その他
7. 閉会

<報告事項>

(1) 令和7年度第3回朝来市環境審議会に係る指摘と対応について

【事務局】 資料1について説明。

(2) 朝来市における生物多様性の課題について

【事務局】 資料2について説明。

【委員】 資料2の10ページで事業活動について記載されている部分について、事業者は水や食など様々な生態系サービスの恩恵を受けていると思われる。しかし、自分たちのビジネスと生態系とのつながりや、具体的にどのように生物多様性保全活動に取り組めばよいか分からない状態だろう。朝来市周辺の事業者ができる取り組みの事例集がコラムなどで提示されていると、自分たちのビジネスと生態系のつながりに気づくことができるだろう。

資料2の11ページで河川環境について記載されている部分について、河川の河床を掘り下げているため地下水位が低下しているという有識者の意見があるが、地下水を保つために河床を掘り下げている事例もある。一専門家の意見をそのまま使ってよいのか検討が必要である。

資料2の17ページの図6のグラフについて、凡例に従うと青線が経営耕地面積で、赤い棒グラフが総農家数であるが、説明文の内容と一致しない。凡例が正しいのであれば、文章を再確認してほしい。

【事務局】 資料2の17ページのグラフの文章については、資料作成上のミスである。図が正しく、総農家数が一貫して減少し、経営耕地面積は2020年から2025年にかけては横ばいである。

有識者の意見については、本資料は審議会用の資料であるため、発言されたままを記載している。戦略本編にどこまで記載するかを検討する。

【副会長】 資料2の12ページの「鎮守の森」という言葉について、「社叢林」という言葉に変えてはどうか。難しい言葉のためにあえて「鎮守の森」という言葉を使っていると思うが、「社叢林」という言葉が死語になってしまうため、使ってはどうかと思う。

【会長】 「社叢」も「鎮守の森」も意味としては同じだろう。最近は「鎮守の森」という言葉が入ったタイトルの本がよく出版されており、「鎮守の森」という言葉の知名度も上がっているだろう。「社叢」という言葉を使うことも一つの意見だろう。事務局で検討してほしい。

【委員】 アンケートの自由記述に落葉広葉樹林の割合が減ったと書いてある。落葉広葉樹林の減少は、陸地の生物多様性だけでなく河川の生物多様性にも大きく影響しているだろう。関東から引っ越してきて、朝来市の針葉樹林率の高さに驚いた。落葉広葉樹林の減少は、市民が山にアクセスしにくいことと関係しているのではないか。高齢者の方が感じている落葉広葉樹林の減少について、データで示せると良い。

【事務局】 以前、村の古老からは、第二次世界大戦後に雇用対策の関係もあり、植林が進められたと聞いた。粟鹿山の山頂付近ははげ山になっているが、ここには植林したものの、育たずにススキ草原になってしまったと聞いている。落葉広葉樹林がどの程度の減少したのか、農林振興課などに確認したい。

- 【委員】 関東では 1945 年頃にアメリカ軍が空撮したもので確認できるが、朝来市のものはないか。
- 【事務局】 米軍の写真は見たことがある。確認したい。
- 【会長】 米軍の写真はネットでも公開されている。戦略の中で示す現存植生図と植林前の植生図を比較すると、環境の変化が分かりやすく、市民の環境に対する認識も変わるだろう。ぜひ実現していただきたい。
- 【委員】 資料 2 の 7 ページの「情報のアクセシビリティ不足」とあるが、現状の情報提供状況はどうなっているか。
- 【事務局】 朝来市の保全活動は端緒についたばかりで、出せる情報が少ないのが現状である。「川の生きもの観察会」などの事業は子ども対象のため、学校には案内を配布しているが、一般市民には届きにくい。なお、生涯学習課と連携し、生物多様性講座を 6 月、9 月、10 月の 3 回シリーズで実施予定である。参加者は 13 名と聞いている。今後どのように周知していくかは課題である。

(3) 朝来市生物多様性地域戦略と朝来市レッドリスト・ブラックリストの作成進捗について

- 【事務局】 資料 3、参考資料 3-1、3-2 について説明。

<協議事項>

(1) 朝来市生物多様性地域戦略の作成について「めざしたい姿（将来像）」「基本戦略」「状態目標」「行動目標」の検討

- 【事務局】 資料 4 の「1. 令和 7 年度第 3 回環境審議会での意見を踏まえた「めざしたい姿（将来像）」・基本戦略の案」について説明。
- 【委員】 「めざしたい姿（将来像）」はスローガンとして素晴らしいと思う。
基本戦略③と④の違いがわかりにくい。③は身近な行動で、④はスケールや時間軸が大きいものということか。
- 【事務局】 基本戦略③は、自然環境や生きものを守るために行動する必要がある、という方針である。基本戦略④は、様々な活動や取り組みの実現のために、多様な主体による連携・協力を促したり、実施体制を構築する必要がある、という方針である。基本戦略に紐づく状態目標や行動目標を確認していただくと、イメージが付きやすいと思う。
- 【会長】 基本戦略③は生物多様性を守るための直接的な取り組みを意味しており、基本戦略④は人材育成や連携、実施体制など取り組みを支えるための体制を意味している。
- 【委員】 「みんなの力で」という言葉が漠然としており、「私のことではない」と捉える人もいるのではないか。
- 【会長】 別の文言に変えるなら、どのような文言が良いか意見はあるか。事務局で他の案があれば紹介いただきたい。
- 【事務局】 「あなたとみんなの力で」など、あなたの力も必要だと語りかけるような文言

でも良いだろう。「みんな」というと漠然として行動変容に繋がらないという懸念は感じる。

【会長】 スローガンにも「みんな」という言葉が入っている。自分も含めてみんなで協力して豊かな自然を守って行こうという意味があるため、「みんな」という言葉でもよいのではないか。

【委員】 基本戦略④は連携がキーワードだと思うので、「連携して」や「協力して」などの文言を入れてはどうか。

【事務局】 「みんなの力で連携して」が意味が通じやすいのではないか。「みんなで連携して」や「みんなで協力して」としてはどうか。

【会長】 「みんなで協力し豊かな自然を未来につなぐ」でどうか。協力の方が響きが良い。

【事務局】 協力の方が読みやすいと感じる。

【会長】 「協力」という言葉を盛り込み、事務局で検討してほしい。めざしたい姿と基本戦略については、基本戦略④の修正をもって確定とする。

【事務局】 資料4「2. 状態目標・行動目標の検討フロー」と「3. 課題を踏まえた状態目標・行動目標（案）」について説明。

【委員】 主体別の課題は丁寧にまとめられている。また、状態目標を設定し、10年後の朝来市の生物多様性とそれを取り巻く状態が分かりやすく記載されており、目指すべき方向性がよく見える。しかし、行動目標の主語のほとんどが行政である。市民が主体的に取り組むべきこととセットでないと、市だけの目標と捉えられてしまう懸念がある。

状態目標も行動目標が定性的に書かれており、評価が難しい。環境基本計画と同様に数値目標を設定し、評価マネジメントすべきである。

【事務局】 行動目標の主語が行政であるとの指摘は確かである。今後、行動目標の下位に施策が加わる。それらを検討する段階で、市民がどのような行動をすべきかという視点を加えたい。

数値目標については、具体的に協議が進んでいないが、環境基本計画の数値や、自然共生サイトの関係の数値を取り込んでいきたい。また、行政が行うイベントへの市民の参加人数なども評価指標としたい。

【委員】 基本戦略①の行動目標①-4-1について、場所を提供するのが市民なのか行政なのかが不明瞭である。

基本戦略④で「地域自治協議会」という個別の団体名が出ているが、どのような意図があって個別の団体名を出したか。

情報へのアクセシビリティ不足に対して、行動目標で「様々な方法で発信・周知する」と定められているのは良いだろう。しかし、朝来市は様々なアプリが乱立しているため、市民が混乱しないよう、適切な方法によって情報発信してほしい。

【事務局】 行動目標①-4-1の場所の提供については、「市民にとって、気軽に安心して」という意味である。この文では場所を用意するのが行政であるか、市民であるか不明瞭であるのは確かである。行政だけで場所を用意することは難しいため、市民などとの連携による実現を検討し、施策に加えたい。

地域自治協議会については、市が地域にアプローチする 1 つの方法として、区の連合体である地域自治協議会を経由して市の施策を地域で実行するという想定から記載した。地域自治協議会のみを対象とするか、ほかの全ての団体を対象とするかは、今後事務局で協議する。

【委員】 アプリができたというお知らせが多く来る。それぞれの開発にお金が使われているものの、そのアプリを使っている市民はどれだけいるのか疑問がある。例えば、子育てに関するアプリは 2、3 個あるが、その違いがよくわからない。

【事務局】 朝来市でアプリが乱立していることの課題は、得たい情報にたどり着くのに時間がかかるということか。確認し、関係課に意見を伝える。我々も注意していきたい。

【副会長】 多くの事業を地域自治協議会に委ねることは避けてほしい。既に様々な活動があり、資金も潤沢ではない。たくさんの事業を振られても限界がある。専門的な知識を持つ人がいればできることもあるのだが。

【事務局】 そのような意見は非常に多くの方からいただいている。負担にならないよう、現在実施されている事業の中に生物多様性に関する内容を少し取り入れていただきたいと考えている。また、生涯学習課では人材バンクを整備しており、マッチングなどを通じて効果を出したいと考えている。

【委員】 状態目標と行動目標について、行政にしかできないこともあるが、地域、市民、学校と協力することで達成できる目標もあるだろう。関係する主体について、整理されていると理解しやすいだろう。

【事務局】 行政、地域、学校など、それぞれのセクションが連携・連動できれば良いと考えている。「みんなが」では主体が不明確なため、それぞれの主体が自主的・能動的に考えていただけるような戦略にしたい。

【委員】 行動目標がたくさんあるということは、達成すべき仕事はそれだけあるということである。例えば③-1-1 と③-4-1 は保全という言葉がかぶっているが、統合できないか。

【事務局】 それぞれの状態目標に対して行動目標を設定しているが、実際の取り組みとしては合わせてできることもある。施策において合わせて取り組めるように検討したい。

【会長】 状態目標①-2 について、「昔ながらの暮らし」を受け継ぐとあるが、暮らしを受け継ぐことは難しい。「昔ながらの文化を受け継いでいく」などに文言を変えた方が良いだろう。

行動目標③-1-1 にある「ホットスポット」とは、本来「生物多様性が高く、かつ危機的な状況にある場所」を指す言葉である。ここでは危機的な状況にある場所を指しているわけではないため、あえて使う必要はないだろう。

基本戦略③に対応する課題の最後に「在来種の減少」とあるが、これは開発や二次的自然の劣化、外来種問題、地球温暖化問題などの課題が原因となって生じる結果であり、他の課題と並列で挙げられることに違和感があるので、整理してほしい。

状態目標④-2 において、市民や市民団体が必要としている支援について、行政や地域、事業者などが協力するとされているが、支援が必要なのは事業者も同じである。行動目標④-4-1 についても「市民が情報にアクセスできるよう」とされているが、情報を求めているのは事業者も同じである。ここも表現を整

理して欲しい。

【委員】 5月31日に地区のクリーン作戦を行った。今回初めて、地区の役員からオオキンケイギクの駆除について説明があり、実践した。このような取り組みは行動目標③-3-2の具体的な行動だと考えられる。オオキンケイギクの開花時期であったため、非常に見分けやすかった。ほとんどの人が外来種だと知らなかったため、周知にも役立った。クリーン作戦は5月末から6月初めに行われるため、オオキンケイギクの駆除を行うには良いタイミングだろう。参考にしてほしい。

【事務局】 オオキンケイギクについては、6月5日に和田山中学校、近隣企業、市の3者連携で、河川敷に繁茂しているものを駆除する活動を計画している。河川敷の生態系を守る活動にしていきたい。

以上